



四小だより

令和7年10月3日号 No.7

いちよ

山形市立第四小学校
校長 樋口 潤一

<児童数 175 名>

〒990-0055 山形市相生町4番37号 TEL 623-6019 FAX 633-9321

四小愛・山形愛に溢れた114周年創立記念式となりました！ —庄司紗千（しょうじ・さち）さんのミニライブも最高の時間でした！—

—昨日（10月1日）は、本校の114周年創立記念日でした。奨学会の市川智会長と、同窓会の矢野秀弥会長、歴代の校長先生をはじめ、たくさんのご来賓の皆様からご臨席いただき、とても温かく、四小愛・山形愛に溢れた創立記念式を行うことができました。児童代表として「四小がだいすきです！」とお話ししてくれた進藤祐衣さんの言葉と、全校生による美しい校歌にも、胸が熱くなる思いでした。

私は、今から100年前の存蹟に掲示されている短歌「広き野を 流れゆけども最上川 海に入るまで にごらざりけり」にちなんで、以下のような式辞を述べました。また、式典の後、山形を中心に大活躍されている庄司紗千（しょうじ・さち）さんから、素敵なミニライブを行っていただきました！

今日は、私たちの学校、山形市立第四小学校の誕生日、創立記念日です。明治44年、1911年に学校が生まれ、今日でなんと114歳になります。本日、ここに、奨学会会長 市川智様、同窓会会長 矢野秀弥様をはじめ、たくさんのご来賓の皆様をお迎えし、創立114周年記念式を行えることをうれしく思い、心より厚く御礼申し上げます。

さて、今は「令和」の時代ですね。その前は「平成」という時代でした。四小の子どもたちの皆さんは、全員「平成」生まれです。来年の1年生からは、「令和」生まれの子どもたちも入学してきます。では、「平成」の前は、何時代かわかりますか。そうですね、「昭和」という時代です。もっとさかのぼって、「昭和」の前はわかりますか。そうです、「大正」です。その前は、「明治」ですね。その明治の44年、今から114年前にこの四小が生まれて、明治、大正、昭和、平成、そして令和と、5つの時代を生きてきたのです。とっても長生きですよ。今日はその5つの時代の中で、「昭和」のことをお話します。なぜかという、今年が昭和の始めから数えて、ちょうど「100年目」にあたる年だからです。皆さんは、四小の「存蹟館」を知っていますよね。その存蹟館には、四小が生まれた時からの歴史がいっぱい詰まっていますよね。だから、今からちょうど100年前のものもあるのです。それが、これです。ここには、100年前の四小の子どもたちの絵や習字の作品などがそのまま残されています。100年前の6年生の写真もあるのですが、みんな着物を着ています。そしてなんと、男子（男の子）と女子（女の子）のクラスは別々で、その呼び方も1組、2組ではなくて東組、西組だったのです。その6年生全員合わせるとなんと約200名、今の四小の全校生よりも多いのです。100年前の四小の全校生を合わせると、約1,200名でした。今の約6倍以上です。さらに違いをお話すると、今の四小の運動会は春の1回ですが、100年前は春と秋の2回だったようです。全校相撲大会もありました。今の6年生の修学旅行は、これから東京に行きますが、100年前は米沢とか寒河江とか、山形県内への旅行だったようです。100年前と今では、違うところがたくさんありますね。

その中で、100年前からずっと受け継がれているものもあることに気がつきました。それがこの歌、正確には短い歌と書いて「短歌」と言います。何と書いてあるか、読みますね。「広き野を ながれゆけども 最上川 海に入るまで にごらざりけり」。この短歌を、皆さんにも見えるように、私が大きく書きました。「広い広い山形の地を、ずっとずっと流れてゆく最上川は、海に入るまでにごることはなく、美しいままですね」という意味です。この歌は、100年前に、昭和天皇が天皇になる前の年に山形県を訪れ、美しい最上川の姿に感動して作られた歌です。そしてこの歌は、「山形県民の歌 最上川」となって、今も歌われているのです。皆さん、「山形県民の歌」を聞いたことがありますか。それでは、私が歌いますので、ぜひ聴いてください。——歌——

どうですか。私は、「大きく美しい最上川」の姿を描いたこの歌が、山形の人たちの心の美しさを歌っているように感じます。114年前の歴史が今も残り、100年以上も前からずっと美しい心が受け継がれている四小、皆さんはきっと、これから100年の四小を創り、100年後の四小の姿も見てくれるのではないかと、私はそう信じて胸がわくわくしています。

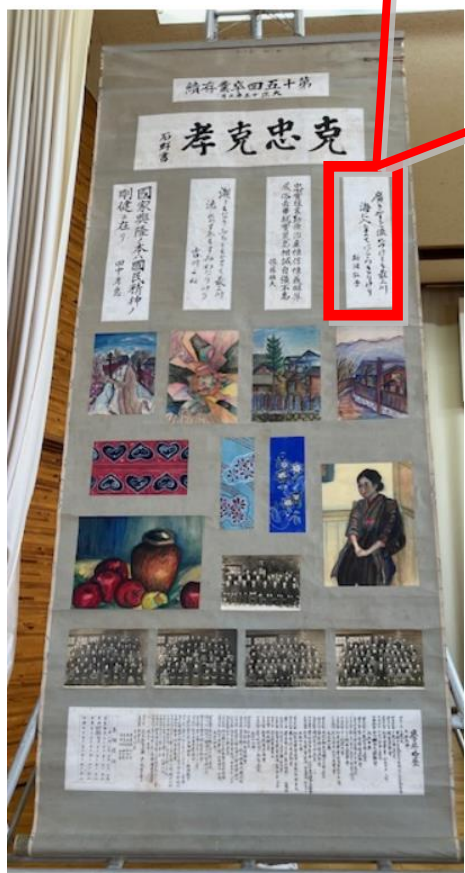
結びになりますが、本日ご臨席いただきましたご来賓の皆様、これからも変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

百年前（大正十五年・昭和元年）の存蹟に掲示された書の短歌（広き野をながれゆけども最上川 海に入るまでにござりけり）が、「山形県民の歌 最上川」として今も歌い継がれていることを子どもたちに伝えました。



広き野をながれゆけども最上川
海に入るまでにござりけり

広き野をながれゆけども最上川
海に入るまでにござりけり



第45回存蹟展
山形県民の歌
最上川



進藤祐衣さんの児童代表の言葉

今から100年前の「存蹟」



庄司紗千（しょうじ・さち）さん



「やまがた景観物語」の合唱

シンガー・ソングライターとして活躍している庄司紗千さんのミニライブで、「やまがた景観物語」などを一緒に歌いながら楽しい時間を創りました！